

嘉穂高等学校併設中学校の概要について

筑豊地区中高一貫教育校設立準備室

1 設置の基本理念

「めざせ！世界を拓くトップリーダー 可能性への挑戦」

～ 友よ東へ 友よ西へ 友よ南へ 友よ北へ そして 友よここに ～

基本理念は「めざせ！世界を拓くトップリーダー 可能性への挑戦」とした。

「世界」とは国や地域のみをさすのではなく、学問や科学技術、あるいは産業のあらゆる分野を、また、歴史や文化、自己を取り巻く社会そのものを含む広い意味での「世界」である。

「トップリーダー」とは、変化の激しい現代社会で、高い志を持ち、グローバルな視点に立って活躍できるリーダー、あるいは第一線で活躍する科学技術系人材、あるいは地域社会を牽引し発展に貢献するリーダーである。

サブタイトルは本校にある「飛翔の塔」に刻まれている「友よ東へ 友よ西へ 友よ南へ 友よ北へ そして 友よここに」とした。この地で育ち、飛び立ち、「世界」で大きく羽ばたいて欲しいという願いをこめた。

(1) 育成したい生徒像

世界を切り拓くトップリーダーを目指し、果敢にチャレンジできる人材育成を目指す。

① 「広い視野」

自他を尊重し、大きな視点で物事を捉えることができる広い視野をもつ生徒

② 「挑戦する心」

志を立て、何事にも挑戦し続ける心をもつ生徒

③ 「気高く生きる精神」

凜とした、人としての気高さをもつ生徒

(2) 学校全体としての特色化

① 中高一貫校の特色を生かした教育プログラム

6年間を2年間ごとに3つに区分し、それぞれにおいて「確かな学力」の向上と深化を図る。特に、週33時間の授業時間を確保し、効果的に運用することにより「確かな学力」を育む教育を推進する。

② グローバルリーダーの育成

英語によるコミュニケーション能力の向上や、我が国の歴史・伝統文化や国際社会への理解を深めるため、各教科・科目の学習を充実させるとともに「総合的な学習の時間」を活用し、グローバルリーダーとしての資質を育む教育を推進する。

③ 科学技術系人材の育成

数学の授業時数を増加し、中学校3年間で数学の基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得を図る。また、各教科や「総合的な学習の時間」を活用して、生徒の思考力や判断力・表現力を育む教育活動を推進する。

④ 地域社会を牽引するリーダーの育成

地域と連携した体験活動を取り入れ、地域への理解を深めるとともに、地域ボランティア活動や地元大学・市町との連携をとおして、地域社会の発展に貢献しようとする意欲や態度を育む教育を推進する。

⑤ ICTを効果的に活用した教育の充実

ICTを活用することで、一斉授業のほか個別学習や、生徒同士が教え合いながら学ぶ協働学習において基礎的・基本的学力の定着を図り、主体的に学習に取り組む意欲や態度を育む教育を推進する。

⑥ 全人教育の充実

学校創立以来の伝統である「文武両道の精神」と「気高さを求める心」を重んじ、知識・技能の習得はもとより、感性や徳性などを重視し、人間として調和のとれた発達を目的に全人教育を推進する。

2 設置形態等

(1) 設置形態 併設型中高一貫教育校（嘉穂高等学校の敷地内に設置）

(2) 入学定員 中学校 1 学年 2 学級（80 人）

(3) 中学校の通学区域 県内全域

3 入学者決定

(1) 面接、適性検査及び作文の結果を総合的に判断して入学予定者を決定するものとする。
なお、その決定に当たっては、調査書の記載事項を十分考慮するものとする。

(2) 面接、適性検査及び作文は次のとおりとする。

ア 面接

中高一貫教育校で学ぶ意欲や目的意識、小学校 6 年間を通しての生活や学習の状況などを評価するものとする。

イ 適性検査

身の回りのいろいろな事柄に対して課題意識を持ち、自ら考え解決しようとする態度や能力などを評価するものとする。

ウ 作文

身の回りのいろいろな事柄に対して課題意識を持ち、自ら考え分かりやすく表現しようとする態度や能力などを評価するものとする。

(3) 調査書については、「各教科の学習の記録」や「行動の記録」、「総合所見」欄によって、志願者の優れている点や長所を選考に反映させるものとする。

4 本校の特色

(1) 6 年間を一貫した教育活動

| 中学校 | | | 高等学校 | | |
|------------------------------|-----|-------------------------------|------|---------------------------------|-----|
| 中 1 | 中 2 | 中 3 | 高 1 | 高 2 | 高 3 |
| 自己発見期（基礎期） | | 自己探求期（充実期） | | 自己実現期（発展期） | |
| ・ 基本的な生活習慣の確立 ・ 精神力、体力の育成 | | ・ 自己の個性や適性の把握と確立 ・ 進路意識の育成 | | ・ 自己実現を目指すための学力の充実 ・ 進路目標の確立 | |

(2) 教育活動の 4 つの柱

ア 1 週あたり 33 時間相当の授業時間を確保し、基礎基本の徹底とともに、内容の深化を図り「確かな学力」を育む。

イ キャリアプランニングプログラムを発達段階に応じて計画的に実施し、将来設計ができる能力を育む。

ウ 充実した体験的活動を実施し、体験に基づく知識の定着を図るとともに、高い志や豊かな人間性、道徳性を育む。

エ 中高大が連携した教育プログラムを開発、実施し、科学技術への理解を深めるとともに探究する学習活動により思考力・判断力・表現力を育む。

5 コースの選択

(1) 6年間の学級編制等

| 中学校 | | | 高校（普通科） | | |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|----|--------------------------|-------------------|----|
| 中1 | 中2 | 中3 | 高1 | 高2 | 高3 |
| 併設中学校 2クラス（80名） | | | 理数コース（仮称） | | |
| | | | 総合コース （仮称） | 理系 ----- 文系 | |
| <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px 5px; margin-right: 5px;">他の中学校</div> <div style="font-size: 2em;">➔</div> </div> | | | 理数科 1クラス（40名） | | |
| | | | 普通科 4クラス（160名） | | |
| | | | 普通科 武道・日本文化コース 1クラス（40名） | | |

※ 内進生については、原則として6年間内進生のみで構成する「中高一貫コース」とする。

6 特色ある教育活動

(1) 週33時間の活用

ア 週5時間の英語の授業と10分間の学習（毎朝）を活用し、英語コミュニケーションスキルの育成を図る。

イ 土曜日の授業（年間11回、75分×2限）を活用し、実験や実習など体験活動の充実を図る。

ウ 考査前や検定前など、プラス1時間の授業を年間35回程度実施し指導の充実を図る。

(2) 中高一貫教育校に係る教育課程の特例について

※各学年ともに授業時間を増加し、基礎基本の確実な習得を図る。

○ 数学、英語では生徒の理解度に応じ、高校の学習内容に触れさせることで、学習内容の深化を図る。

(3) 中学校段階の課外の実施について

- 心身の負担を考慮して朝課外・放課後課外は実施しない。
- 長期休業中の授業・講座（課外）は実施予定。

(4) 総合的な学習の時間『嘉穂プロジェクト』

「体験活動プログラム」、「キャリアプランニングプログラム」、「中高大連携プログラム」の3つのプログラムを活動の柱として、自己の在り方や生き方を考えさせる教育の充実を図る。特に嘉穂高校のSSH（スーパーサイエンスハイスクール）事業の成果を踏まえた取組を取り入れた教育活動を実施する。

ア 体験活動プログラム（学習活動の例）

- ・ 宿泊研修…入学段階で宿泊体験研修を行う。学校生活のオリエンテーションを実施。良好な人間関係作りにつとめる。
- ・ 地域調査…身近な地域の様々な分野について調べたり、取材したり、発表する活動を行う。
- ・ コミュニケーショントレーニング…英語スピーチコンテストや英語宿泊研修を実施する。

イ キャリアプランニングプログラム（学習活動の例）

- ・ 職業観育成講座、キャリアガイダンス…職業人や教育研究機関、大学などから講師を招き、勤労観や職業観を育む取組を実施する。
- ・ 職場体験…自分の適性や可能性を探るためインターンシップを実施する。
- ・ グローバルリサーチ…現代社会の諸問題について課題研究を行い、後の社会の変容や自己の課題等について探求する学習活動を実施する。

ウ 中高大連携プログラム（学習活動の例）

- ・ジュニアサイエンスプロジェクト…高校生が中学生の理科実験を指導する。
- ・科学技術体験講座…「サイエンスする心」を育てるための初歩として、大学のサイエンスフェスタ等に参加する。
- ・フィールドトリップ…グローバルな感覚を培うため、近隣大学の留学生との交流会を実施する。

（５）その他の教育活動

学校行事：儀式的行事、文化祭、体育祭は原則として中高合同で実施

生徒会：中高別に実施（ただし、学校行事等は十分な連携をとって実施）

「高校生サポーター」：高校２年生から希望者を募り、中学１年生の相談・助言等を行う。